

あけてビックリ！公金の行方

前回「みなさんの税金の行方」と題して、平成18年度決算の概要と、「交流プラザ」の収支の実態などをお伝えしました。山中湖村は「防衛からの補助金」を財源にいろいろな施設を造りました。しかし、この施設も赤字経営で、その維持管理には、皆さんの税金が投入されています。

その極めつけが「交流プラザ」です。建設に約25億円をかけ、さらに開幕からの二年間で、なんと約3億8000万円もの運営管理費を投入しています。しかも、このお金が村内を循環していれば、山中湖村の経済復興につながるものを、ほとんど村外業者に流出してしまいました。このような今の行政のやり方では、村民が豊かになるはずがありません。樋口は担当課長をとおり、村民の人材を結集した交流プラザの「自主運営」を念頭に、根本的見直しを提案しています。

**磁石で燃料が
10%削減(?)
ズサンな契約を解除し
公金を回収せよ!**

平成18年度決算内容の独自調査で明らかになった内容のつを報告します。

すでに、2月26日のNHKラジオニュースや27日の山日・読売新聞(山梨版)で存知のとおり、紅富士の湯、石割の湯それぞれの温泉施設では、ボイラー用燃料回路に直径約2cm長さ約30cmほどの磁石内蔵のステンレスパイプを取り付けています。

このパイプで、燃料が、紅富士の湯で12%、石割の湯で10%削減されたというテスト結果を前提に、年間6000万円近い燃料代の4%を、省土・コンサルタント料として千葉の業者に支払い続けています。樋口が、情報公開などで関係資料を入手し精査すると、テスト結果に用いた問題のパイプを装着する前の燃料使用量の数値は、提出された資料の該当する数値と異なり、削減率の計算式も



全くデタラメでした。現在、企画課担当係長は、燃料使用量に用いた数値の根拠は不明。計算式も計算結果も誤りでした」と認めています。

さらに、これを製作した会社を訪問すると、ボイラー(重油)に用いたデータはない。「あれは試作段階であり、思わしい結果が出ていないので現在は出荷していない」、販売予定価格は数万円、千葉の業者とは現在取引がない」と説明された。

そして、提出された資料から、装着後と装着前の12ヶ月間の燃料総使用量をその期間の総入場者数で割り、一人当たりの燃料使用量を計算すると、結果は、両施設ともほとんど同じ数値で、燃料は削減されていません。さらに、たとえ買い取っても数万円で済むものを、削減効果も未定で、テスト結果もデタラメな磁石のパイプ(約30cm)に対し、今後永続的に年間240万円以上を支払うコンサルタント契約を安易に交わし、1年毎の自動更新(すでに300万円)契約後15ヶ月分もの公金の支出を見直すことはできません。もし、ここで発見されなければ、村民の知らぬ間に、膨大な額を支払いつづけたはずです。(管轄責任者は、企画課長)

防衛補助金の有効活用の見本 沖縄の視察報告

「存知のとおり、北富士演習場について五年に一度、国と地元権利者(と)の間で使用協定の更改が行われます(今年三月末で期限)。

演習場対策協議会が地元の要望を取りまとめ、国や県と交渉を進めており、この結果は、今後五年間の村政事業にも影響していきます。

このような中、「山中湖村演習場対策協議会」の沖縄視察研修(二月二十九日から二泊三日、参加者45名)に参加しました。基地と共に暮らす住民の思いや、防衛補助金による周辺対策事業を視察し、大いに学ぶことがありましたので報告します。最初に、読谷村(よみたんそん)の、先進農業支援センターです。これは、永年の住民の悲願により返還された、米軍旧読谷補助飛行場跡地(国

有地)の部(20ha)に、高収益型の農業従事者を育成する目的で建設した研修支援センターです。

特産の紅芋をはじめ野菜類や花卉類のハウスが27棟、主に台風と病虫害除け、集荷場、出荷場、育苗ハウスなどが立ち並び、五年をメドに研修農家を受け入れていきます。総事業費は約28億円で、そのうち防衛補助金90%で建設。

注目は、この施設を旧地主らでつくる「NPO法人むらおこし共進会」に指定管理者として委託し、管理・運営費は、研修農家の研修費や実費負担でまかない、初年度から村側に負担をかけていないことです。研修農家も、二戸あたり1,000万円から2,000万円の農業収入を上げています。

さらに、施設内に今話題の排油を回収して、「バイオディーゼル燃料」の精製・販売の施設を設け、「社会福祉法人」を指定管理者として、障害者が助け合って働ける場所も広がっています。

次に見学した施設は、「浦添市産業支援センター」です。これも、地域で起業家を志す人たちを、多方面から支援し育成するための施設で、総事業費約21億円(90%補助)。商工会議所が指定管理者の委託を受け、施設利用料収入が委託料を上回り、委託料は毎年減額、市に精算金を納入するほど活用されています。

このように、施設建設後に運営負担をかけず、さらに地元産業や人材の育成を目指した運営は、貴重な防衛補助金の有意義かつ有効な見本として、山中湖村の今後に十分活用できると感じました。

視察中の軽率発言

一方、今回の視察中、米軍基地、キャンプ・ハセン前で防衛関係者の現地説明を受けた時、副議長である河内武雄議員が、「北富士演習場での米軍実弾演習は、現在の二回だけでなく、もっと何回もやってもいいですよ」などと、耳をつたがう発言をし、担当者が苦笑する場面があ

りました。村民の代表である議員として、また、村民の安心・安全の確保を最優先に考えるべき者として、不見識極まりない軽率な発言であると感じました。

二月八日開かれた議会内の演習場対策協議会の席上、樋口はこの軽率発言をとり上げました。すると、さすがに、いやあ、防衛の金は要らないというのか、一回実弾演習を行えば1億数千円入る。山中湖村は防衛の補助金で成り立っているんだ」という趣旨の反論をくり返し、さらに天野凱弘議員もこれに同調し、同様の発言をする場面がありました。どうも、この議員たちは、演習をさまざまに、村民の心情や補助金の有効活用話題には全く関心がないようです。

いろいろな意味で、今後には生かせる大収穫の研修でした。

3月定例議会のお知らせ

平成20年度の当初予算を審議する「3月定例議会」が、3月11日から21日の間開催される予定です。初日(11日)は、午後1時半召集予定。現時点では予定ですが、確定は3日前です。詳細は議会事務局にお問い合わせるか、樋口までお問い合わせください。

**20年度予算について
報告と懇話会**
どなたでもお気軽にご参加ください
4月2日(水)午後2:00~4:00
於 / 情報創造館・研修室

樋口は、希望のもてる村づくりのため、権力のおごりや、公金のムダ使いを含む、行政の不透明な点を村民の前に明らかにし、皆さんと一緒にその改善を目指していきます。無関心や他人事にしては何か変わりません。みなさまの率直な考えをお聞かせください。